

総集編

SDGs
Society
for All

教 えん こ ス モ さ ん



0

本書の使い方

身近なサステナブル「みぢサス」を見つけ、考えてみよう!
文章や写真、ヒントを手がかりに、問いかけに挑戦してみよう!

① ページ数と文章のテーマだよ!

② SDGsのメガネをかけて写真を見てみよう!

1
SDGsってなに?



写真から見えてきた、
身近なサステナブル
なこと「みぢサス」はあるかな?

③ 文章の内容をよく読んでみよう!

皆さんは、亀岡のまちなかで、上着の襟元にカラフルな円形のピンバッジ(写真)を付けた人を見かけたことはありますか。これはSDGs(エス・ディー・ジーズ)をイメージして作られたピンバッジです。

SDGsとは、2015年9月に米国・ニューヨークの国連本部に集まった世界のリーダーたちによって決められた「持続可能な開発目標(SDGs)」と呼ばれる世界共通の目標です。SDGsには、「貧困をなくそう(ゴール1)」や「海の豊かさを守ろう(ゴール14)」といった17のゴールが掲げられています。SDGsの達成期限は2030年に設定されており、目標を達成するために残された時間は、およそ5年しかありません。

最近では、テレビで特集が組まれたり、学校の授業で紹介されたりと、さまざまな場面でSDGsという言葉に触れる機会が増えています。なぜ私たちはSDGsの達成に向けて取り組まなければならないのでしょうか。

その理由は、私たち自身にあります。例えば、私たちの生活に欠かせないスマートフォンは、「レアメタル」と呼ばれる希少金属をはじめ、多くの資源を使って作られています。私たちの生活が便利になる一方で、これらの資源を使い続けると、いつかは地球上から無くなってしまふでしょう。これは果たして「持続可能」と言えるでしょうか。

本連載では、豊かな亀岡市を未来の世代にバトンタッチしていくために何が必要か、SDGsを通じて考えていきます。

④ 問いかけがあるよ。
自分の考えを、
問いかけの下に書こう!

■ 今から100年後の亀岡にあなたが残したいものは何か考えてみましょう。

⑤ イラストと言葉は
問いかけを考える
ヒントだよ!



「教えて コスモさん!~SDGsのアレコレ~」は、令和3年8月から令和6年8月まで、亀岡市の広報紙「広報かめおか」において連載をしました。

連載記事は、亀岡市参与(SDGsアドバイザー)の高木超氏が、SDGsを市民の皆さまに“できるだけ身近に感じていただけるよう”に、亀岡に住んでいる人や亀岡にゆかりのある人であれば誰もが知っている亀岡の風景や生物などを題材に、SDGsのアレコレを分かりやすく執筆いただきました。

写真は亀岡市のPR隊「ファインダー女子広報部」出身で現在はプロのフォトグラファーとして活躍されている江見彩香さんに撮影していただきました。

この冊子を読んでいた多くの人が、身近なサステナブル(みぢサス)に気付いていただき、ちょっとした“みぢサス”な行動をしていただけると幸いです。

1

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



SDGsってなに？

皆さんは、亀岡のまちなかで、上着の襟元にカラフルな円形のピンバッジ(写真)を付けた人を見かけたことはありますか。これはSDGs(エス・ディー・ジーズ)をイメージして作られたピンバッジです。

SDGsとは、2015年9月に米国・ニューヨークの国連本部に集まった世界のリーダーたちによって決められた「持続可能な開発目標(SDGs)」と呼ばれる世界共通の目標です。SDGsには、「貧困をなくそう(ゴール1)」や「海の豊かさを守ろう(ゴール14)」といった17のゴールが掲げられています。SDGsの達成期限は2030年に設定されており、目標を達成するために残された時間は、およそ5年しかありません。

最近では、テレビで特集が組まれたり、学校の授業で紹介されたりと、さまざまな場面でSDGsという言葉に触れる機会が増えていますが、なぜ私たちはSDGsの達成に向けて取り組まなければならないのでしょうか。

その理由は、私たち自身にあります。例えば、私たちの生活に欠かせないスマートフォンは、「レアメタル」と呼ばれる希少金属をはじめ、多くの資源を使って作られています。私たちの生活が便利になる一方で、これらの資源を使い続けると、いつかは地球上から無くなってしまいます。これは果たして「持続可能」と言えるのでしょうか。

本連載では、豊かな亀岡市を未来の世代にバトンタッチしていくために何が必要か、SDGsを通じて考えていきます。

■ 今から100年後の亀岡にあなたが残したいものは何か考えてみましょう。

Blank lines for writing answers to the question about what you want to leave behind in 100 years of Goma.



遠い未来のこと、
身近な今の
積み重ねだね！

2

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



誰がSDGsに 取り組むの？

2030年を達成期限に、世界が力をあわせて取り組んでいる「持続可能な開発目標(SDGs)」。

昨年、亀岡市も「優れたSDGsの取り組みを提案する地方自治体」として、内閣府から「SDGs未来都市」に選ばれました。

それでは、SDGsの達成に向けて一体誰が行動する必要があるのでしょうか。

その答えは、「すべての人」です。

例えば、市役所がいくらがんばっても、豊かな亀岡の自然を、私たちの孫や、その先の世代まで引き継いでいくことは難しいでしょう。というのも、たった一人の誰かが、外来魚を市内で放流してしまうことで、亀岡の生態系のバランスが崩れてしまう可能性もあるのです。

実際に、市公式ホームページでも、上流にあるため池などに生息している外来魚「オオクチバス」などが侵入し、「アユモドキ」が食べられてしまう可能性が指摘されています。

こうした外来種の問題だけでなく、SDGsには世界中の課題が集約されています。その達成には、国や市役所だけでなく、企業、そして市民一人一人の協力が必要です。

■ アユモドキを守るために、あなたができることを3つ考えてみましょう。

Blank lines for writing three things you can do to protect Ayu no Moki.



アユモドキは、
なほ減って
しまったのかな？

3

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



世界の課題も 私たちとつながっている

「持続可能な開発目標(SDGs)」と聞くと、「開発」という言葉から、遠く離れた開発途上国を思い浮かべて、「亀岡で暮らす私たちとは関係ない問題ではないだろうか」と感じる人もいるかもしれません。

しかし、今日あなたが食べたおやつは、すべて亀岡産の食材で作られたものでしょうか?バナナや、コーヒー、チョコレート…挙げたらきりがなく多くの食材が、亀岡から遠く離れた国で生産され、私たちのもとに届きます。

こうした作物は、亀岡から遠く離れた国々の水や土壌といった資源を使って栽培されています。また、船や飛行機、車を使って日本に運ばれる際にも、多くのエネルギーを使い、気候変動の要因とされる二酸化炭素を排出します。

もしかしたら、「飢餓をゼロに」、「気候変動に具体的な対策を」といったSDGsで掲げられているさまざまな課題を引き起こす原因が、亀岡市で暮らす自分たちにあるかもしれない—そう考えると、買い物をするときの商品の選び方も変わってくるかもしれません。これを機に、SDGsを通じて、世界の課題と私たちのつながりを考えてみてはいかがでしょうか。

■ 今日のお昼ごはんに使われていた亀岡産の野菜の種類を数えてみましょう。

-
-
-
-



4

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



誰がSDGsに取り組むの?

今回は、バックカスティングという「持続可能な開発目標(SDGs)」の特徴をご紹介します。バックカスティングとは、はじめに目標を設定し、その目標を達成した状態から逆算して、いつまでに何をしなければならないか考えるアプローチです。

例えば、あなたが中学生で、将来プロサッカー選手になりたいならば、「2030年に京都サンガF.C.の選手としてサンガスタジアムby KYOCERAで活躍している」といった具体的な姿を設定し、そこから逆算して、いつまでに何をしなければならないのかを考えるのです。

その際に、目標をぐっと高い位置に置くことがポイントです。圧倒的に高い目標を掲げることで、これまでの取り組みを続けていては達成できないということにあらためて気づくことができます。その感覚こそ、根底から違うアプローチを考えるチャンスです。

SDGsでも、2030年までに世界から「貧困をなくす(ゴール1)」や「飢餓をゼロにする(ゴール2)」といった高い目標が掲げられています。これらの目標が実現した10年後の亀岡市の姿を思い浮かべて、私たちはいつまでに何をしなければならないか、亀岡のみんなと一緒に考えてみませんか。

■ あなたが2030年に実現したいことを決めて、その実現に向けて今日からできることを3つ挙げてみましょう。

- _____
- _____
- _____



5

日常の景色にある SDGsを見つけてみるー1

世界共通の目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」について、「なんだか遠い世界の話のように聞こえる」という声も耳にします。でも、亀岡の暮らしの中に、たくさんのSDGsを見つけることができます。

例えば、市内に無料の給水スポットが増えていることを知っていますか?今年10月には、参加者が市内でマイボトルに給水した量を記録して、削減できたペットボトルの本数を競う企画を市が開催していたことを覚えている人もいないのでしょうか。

マイボトルを持ち歩くことで購入するペットボトルを削減できたら、廃棄物の発生を大幅に減らすことなどを目指すSDGsのゴール12「つくる責任 つかう責任」の達成に貢献します。

ほかに、プラスチックも含めた海洋汚染の防止などを掲げるゴール14「海の豊かさを守ろう」の達成にも貢献する可能性があります。なぜかという、大阪湾につながる保津川に、もしペットボトルが捨てられてしまったら、海に流れ着いてしまうかもしれないからです。

今回はペットボトルを切り口に考えてみましたが、目を凝らしてみると、ほかにたくさんのSDGsが日常の暮らしの中で見つかるはずです。

SDGsのメガネをかけて見てみよう



6

日常の景色にある SDGsを見つけてみるー2

前回に続いて、亀岡の暮らしの中で見つけた「持続可能な開発目標(SDGs)」に関連する取り組みをご紹介します。

まず、SDGsには「貧困をなくそう」をはじめとした17のゴールが設定されています。それらの目標には、その内容を具体的に示した「ターゲット」と呼ばれる中間目標のようなものが設定されています。

ゴール3「すべての人に健康と福祉を」には、「道路交通事故による死傷者を半減させる」というターゲットが設定されています。それでは、交通事故を減らすためには、どうすれば良いでしょうか。例えば、最高速度を規制したり、歩道を整備して車と分離したりするといった方法が考えられますが、一風変わった方法が亀岡市内で見られます。

千代川小学校の正門前にある横断歩道が、まるで立体的な構造物のように浮かび上がって見えることをご存じでしょうか。これは人間の目の錯覚を利用したもので、運転手に車の速度を落としてもらう狙いがあります。

この事例のように、規制だけではなく、「人間が思わず行動してしまうような工夫」も考えてみると、持続可能なまちの実現に向けた取り組みの幅が広がるはずです。

SDGsのメガネをかけて見てみよう



ペットボトルのポイ捨てを防ぐためのアイデアを1つ考えてみましょう。





お店でどこに並べば良いかを教えてくれる「足跡マーク」のように、あなたの身の回りに「思わず行動してしまう」工夫がないか考えてみましょう。





7

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみるー3

前回に引き続き、日々の暮らしの中から「持続可能な開発目標(SDGs)」に関するできごとを探してみましょう。国際化が進む現代、私たちの生活には、海外で作られた製品も日常的に使われています。

例えば、私たちが着ている服の商品タグを見てみると、海外で作られているものも多いのではないのでしょうか。海外で製造された1着の服で考えてみると、原材料の調達から日本の店頭まで、500mlのペットボトル約255本を製造するのと同量の二酸化炭素が排出され、浴槽約11杯分の水が使われるなどの環境負荷がかかります*。

そのため、まだ着ることができる服を簡単に捨てて新しい服を買うのではなく、修理したり、仕立て直したりして丁寧に使い続けることも、SDGsの視点で見れば「つくる責任つかう責任(ゴール12)」をはじめ、いくつものゴールの達成に貢献できる行動です。

2021年11月に、市役所の地下の「開かれたアトリエ」で開催された「ボンボンマルシェ」でも、服やアクセサリーを修理してくれる「あっぱれお直し」という企画が好評でした。まずは「大切な服を長持ちさせる」といった身近なことから、SDGsを考えてみませんか。

■ あなたが持っている服のうち、誰かからのお下がりはいくらあるか考えてみましょう。

この浴衣は、おばあちゃんからのお下がりでしょ！



*出典:環境省ウェブサイト「SUSTAINABLE FASSION」

8

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみるー4

最近では、インターネット環境の整備やタブレット端末の普及などによって、職場に通勤せずに、自宅やコワーキングスペースから遠隔で仕事を行う人も増えているのではないのでしょうか。こうした多様な働き方ができる環境を整えていくことも、SDGsのゴール8「働きがいも 経済成長も」を実現するための切り口のひとつです。

2021年、亀岡市役所の地下にオープンした「開かれたアトリエ」では、打ち合わせや作業などに使えるコワーキングスペースが設置され、無料でWi-Fiが使用できるなど、インターネット環境も整っています。こうした場所が設けられたことで、職業などの垣根を超えてさまざまな人が集い、新しいアイデアが生み出される可能性があるはずです。

また、自宅などから遠隔で働くことの利点は、それだけではありません。通勤時に乗る自家用車やバスのエネルギーの使用量や、二酸化炭素の排出量を削減できると考えるなど、ほかのゴールの達成に貢献できることがないか考えてみることも視野を広げてくれます。

SDGsがもたらしてくれる幅広い視点を活用しながら、あなたが実現したい「未来の働き方」はどのようなものか、家族や友人と話し合ってみてはいかがでしょうか。

■ あなたが実現したい「未来の働き方」とは何か考えてみましょう。

常識を捨てて、考えてみよう！



*出典:環境省ウェブサイト「SUSTAINABLE FASSION」

9

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-5

SDGsの17あるゴールの中には「安全な水とトイレを世界中に(ゴール6)」が設定されています。亀岡で暮らす私たちは、当たり前のように安全な水道水を利用することができるので、重要な課題だと思える人は少ないかもしれません。

しかし、国土交通省によると、世界の中で水道の水をそのまま飲める国は、日本を含めてたった9カ国しかなく、安心して水が飲めることは世界の常識ではないのです。※

日本国内でも、老朽化した水道管を新しいものに更新したり、災害時に備えて耐震性のある水道管を設置したりと、安全な水を供給するために必要なことがあります。

亀岡の水道水は、桂川水系などの地下水を水源としており、厚生省(当時)が設置した「おいしい水研究会」によって「おいしい水」に選ばれています。市外からも評価を受ける亀岡市の水道水は、上下水道部の職員が水質の管理をして提供しています。また、亀岡市の水道水は、本年2月から隣の南丹市にも供給されており、ほかの地域との結びつきを考えるきっかけにもなります。

2025年の今日、蛇口をひねると当たり前のように出てくる水道水ですが、50年後、100年後の未来に暮らす亀岡市民も安心しておいしい水が飲めるようにするために、私たちにできることがないか一緒に考えてみませんか。

■ 水道水が飲めなくなると、どのような「困りごと」が起きるでしょうか。



※国土交通省「平成30年版 日本の水資源の現況」 第7章 水資源に関する国際的な取り組み
https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_fr2_000020.html

10

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-6

家族や友人と出かけたレストランで、つい注文しすぎてしまい、すべての料理を食べきれなかったという経験がある人も多いのではないのでしょうか。

このように、本来は食べられるにもかかわらず捨てられている食べ物を「食品ロス」と呼びます。日本では、一日一人あたり124g※、身近なものに例えると、おにぎり1個分よりも少し多い量の食品ロスが発生しています。

その原因は食べ残しだけではなくありません。うっかり賞味期限を切らしてしまったり、料理をする際に食材の食べられる部分も包丁で多めに切ったりして捨ててしまうことで、食品ロスは発生します。

SDGsのゴール12「つくる責任 つかう責任」に設定されたターゲットでは、2030年までに世界全体の一人あたりの食料の廃棄を半減させることが掲げられています。その実現に向けて私たちは何ができるか考えてみましょう。

例えば、食中毒の発生に気をつけながら、外出時に発生した食べ残しを「ドギーバッグ」と呼ばれる容器で持ち帰ることを推奨しているまちもあります。私たちも、食材を余すことなく使うことができるレシピを考えてみるなど、何か工夫できることを探してみると、前向きに問題を解決できる方法も見つかるのではないのでしょうか。

■ 毎日食べている野菜や果物の生ごみはどれくらいあるか見てみましょう。



https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/education/
※消費者庁ウェブサイト「食品ロスとは?なぜ食品ロスの削減が必要なの?」

11

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-7

亀岡のまちを歩いていると、たくさんの看板や標識が目に入ります。これらは、私たちがお店や公共施設に行くときにとっても役に立ちますが、誰もがひと目で意味が分かるものばかりでしょうか。

例えば、市内には1000人を超える外国籍の人が暮らしていますが(※注)、日本語を十分に理解できる人ばかりではないはず。もし、自分が日本語を十分に理解できなかったとしたら、漢字だけで書かれている標識の意味をすぐに理解できるでしょうか。このように、言語が障壁となって、外国籍の人などが、日常生活に必要な情報を十分に得ることができない状況に置かれる可能性もあります。

その解決に向けて、多言語で表記するだけでなく、日本語が得意でない人にもわかりやすいよう配慮した「やさしい日本語」を併記したり、一目で意味が分かる絵や図形などを加えたりすることも解決に近づく方法の一つです。こうした視点は、SDGsのゴール10「人や国の不平等をなくそう」に関係しています。

また、ガレリアかめおかには「かめおか多文化共生センター」が設置されており、外国籍の住民等が困っていることや暮らしの悩みなどを相談できます。

誰もが住みやすい亀岡にするために、私たちも自分にできることがないか日常生活の中から探してみたいかがでしょうか。

このマークは
何の部屋かな？

■ まちの中で、絵や図形が描かれた看板を3つ見つけてみましょう。

■ _____

■ _____

■ _____



注) ※京都府ウェブサイト「京都市町村別国籍別外国人住民数一覧表」令和3年12月31日現在を参照
<https://www.pref.kyoto.jp/kokusai/documents/kokusekibetsu.pdf>

12

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-8

都市部では、バスや電車などの公共交通機関が整備されているため、比較的スムーズに移動することができます。しかし、鉄道駅から離れていたり、バスの本数が限られていたりする地域では、買い物に出掛けたり、病院に通院することも大変です。公共交通機関が届かない交通空白地域を解消するためコミュニティバスを運行しています。このように、全ての人が安心して使える公共交通機関を整えることは、SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」に貢献する取り組みです。

また、ゴール9の「産業と技術革新の基盤をつくろう」という視点から、最新技術をうまく取り入れることで、より利便性の高い移動が可能になります。例えば、スマートフォンを使えば、最寄りのバス停や路線を調べることができます(※注)。ほかにも、ゴール10「人や国の不平等をなくそう」の視点から、何らかの障がいを抱えていたり、高齢であったりと、さまざまな理由で移動に困難を感じている人にとって、使いやすい移動手段にしていくためにはどうしたら良いか考えることも、住みやすい亀岡を実現するために必要なことです。

交通機関に限らず、SDGsの視点をうまく使って、現在の生活をより良いものにする工夫を一緒に考えてみませんか。

段差があったり、狭すぎて通れない時どうしたらいいかな？

■ 子供や高齢者、車いすの人はどのように電車やバスに乗るか考えてみましょう。

■ _____

■ _____

■ _____



注) ※市ホームページ「スマホを使って最寄りのバス停を調べよう」を参照

13

SDGsのメガネをかけて見てみよう



学校の給食を通じてSDGsを考えてみよう

最近では、テレビや雑誌でSDGsに触れる機会も増えてきましたが、今回は夏休みを過ごす小学生から中学生の皆さんに向けて、SDGsと亀岡での学校生活がどのようにつながっているのか、身近な例を通じてお話しします。

日本の学校給食で発生する食べ残しは、1人当たり年間7.1kgといわれています(※注1)。亀岡市内で暮らす皆さんの中にも、お腹がいっぱいになって給食を残してしまった経験がある人があるかもしれません。一方で世界で8億2100万人は、ご飯を十分に食べることができず、栄養が足りない「飢餓(きが)」の中で暮らしていると言われていています(注2)。

ご飯を食べ残してしまう人がいるにもかかわらず、十分に食べることができない人がいる—このような不公平はなぜ生まれてしまうのでしょうか。

SDGsでは、こうした問題を解決するために「貧困(ひんこん)をなくそう(目標1)」や「飢餓(きが)をゼロに(目標2)」といった目標が掲げられており、世界全体で考え、協力することが必要とされています。

そこで、まずは「給食の食べ残しをどうすれば減らすことができるのか」といった身近な話題をきっかけにして、友達と一緒にSDGsについて考えてみてはいかがでしょうか。

■ 給食で苦手なものが入った献立の時、「残す」「捨てる」以外の方法を考えてみましょう。



注1) 2013年の推計。環境省ウェブサイト(https://www.env.go.jp/press/100941.html)より引用
注2) 2017年時点。国連広報センターウェブサイト「持続可能な開発目標(SDGs)報告2019」から引用

14

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にあるSDGsを見つけてみる—9

毎年9月1日は「防災の日」。その日を含む1週間は「防災週間」と呼ばれ、全国各地で避難訓練が実施されるなど、災害への備えを改めて見直す機会でもあります。

東京消防庁によると、9月1日が「防災の日」に指定された理由は、1923(大正12)年9月1日に関東大震災が発生したことや、台風シーズンを迎える時期であることも関係しているそうです(※注1)。

近年では、短時間に大量の雨が集中して降る「ゲリラ豪雨」という言葉がメディアで頻繁に使われるようになりましたが、SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」の中には、水害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減することも目標に掲げられています。

こうした災害に対して、必要な物資を備蓄したり、家族で避難経路を確認したりするなど、私たち一人一人が防災力を向上させる必要があります。

また、火災や災害の発生時に救助・救出活動や避難誘導を行い、地域住民を守るために活動する消防団の存在が知られていますが、亀岡市内にも19の分団が組織されています(※注2)。それぞれの本業を持ちながらも、安全で安心して暮らせる地域にするために取り組む消防団の活動は、SDGsにいくつも掲げられている防災の視点だけでなく、ゴール17にある「パートナーシップ」の視点からも重要なものです。

■ 災害や火災が起こった時、どこにどのように避難するか、家族で話し合ってみましょう。



注1) 東京消防庁ウェブサイト「防災の日と二十十日」https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/libr/qa/qa_59.htm
注2) 亀岡市ウェブサイト「亀岡市消防団の紹介」https://www.city.kameoka.kyoto.jp/soshiki/15/2507.html

15

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-10

秋の訪れとともに、気温はもちろん、木々の葉の色や、聞こえてくる虫の声、収穫できる農作物が変化します。例えば、10月に入ると「丹波くり」が収穫の時期を迎え、本格的な秋の到来を感じます。こうした季節の変わり目を私たちに知らせてくれる豊かな自然が亀岡には残されていますが、100年後、200年後の世代に受け継いでいくことができるでしょうか。

というのも、世界には既に確認されているだけで175万種、未知の種も含めると3,000万の種の生き物が存在していることが確認されていますが、なんと毎年1,000~1万種が地球上から姿を消していると言われています。自然環境に見られる生きものたちの豊かな個性とつながりは、「生物多様性」と呼ばれ、SDGsのゴール15「陸の豊かさを守ろう」でも、自然生息地の劣化を抑えて生物多様性の損失を防ぎ、保全していくことの重要性が掲げられています。

亀岡にも、絶滅のおそれがある希少植物のオニバスが平の沢池で自生していますし、アユモドキやオオサンショウウオといった希少な生き物も暮らしています。身近にある自然環境を未来に繋いでいくために私たち一人一人に何ができるか、ご家族や友人と一緒に、みんなで考えてみませんか。

■ 秋になると亀岡市で大量に発生する臭いカメムシ。そんなカメムシが絶滅したら、どんな生態系に影響があるか、考えてみましょう。



参考文献

1. 竹本和彦(2020)「環境政策論議」東京大学出版会
2. WWFジャパンウェブサイト「生物多様性とは?その重要性と保全について」 <https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3517.html>

16

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-11

道路や駅構内の床面に設置された点字ブロック。視力がなかったり、低下したりしている視覚障がい者の移動を助けるための案内表示として知られていますが、その形について考えたことはありますか?

例えば、クニッテルフェルト通りをはじめ、亀岡駅南口の歩道に設置された点字ブロックの多くは真っ直ぐな線状をしています。これは誘導ブロックと呼ばれ、移動する方向を教えてください。一方、公共施設の階段には、点状のブロックが設置されています。これは、警告ブロックと呼ばれ、危険な場所や目的地を伝える役割を果たしています。視覚障がいがある人は、このブロックを白杖や足の裏で確認しながら進んでいるので、点字ブロックの上に、自転車や荷物などが置かれてしまうと移動が妨げられてしまいます。

SDGsの17ある目標の中には「人や国の不平等をなくそう(目標10)」や「住み続けられるまちづくりを(目標11)」が掲げられ、障がいの有無に関わらず、全ての人が暮らしやすい社会を実現することが求められています。

点字図書の充実や音声案内の整備など、視覚障がいがある人にとっても生活しやすいまちにするためにどのようなことが必要か、家族や友人と一緒に考えてみませんか。

■ いろんな人が利用する駅のエレベーターの音や、まちの信号の音はどんな音でしょう。目を閉じて聞いてみましょう。



- 参考文献 埼玉県ウェブサイト「点字ブロックは視覚障害者の命綱です」
<http://www.env.go.jp/press/113666.pdf>

17

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-12

早いもので今年も12月。新年を迎える前に「持続可能な開発目標(SDGs)」の観点で今年を振り返ってみたいと思います。

猛暑が続いていたあの夏の日、7月28日(木)は何の日だったか覚えていますか？

国際NGOの発表1によると、この日は、地球が今年1年間に供給できる資源を人間が使い果たしてしまった日で、「アース・オーバーシュート・デー」と呼ばれます。世界全体だけでなく、国ごとの状況も発表されており、日本は5月6日(金)が該当します。こうした調査から、私たちの暮らしは地球1個分の資源で成り立っている訳ではないことが分かります。

例えば、スーパーマーケットの店頭に並ぶ外国産の食料品は、その国の水や土壌を使って育てられています。ほかにも、私たちが着ている服、生活に欠かせない電化製品など、身の回りに外国で作られた製品はたくさん見つかります。こうした製品は、果たして適切な労働環境で作られているのか、国産の製品と比べて環境負荷はどのくらい多いのかといったことも考えながら製品を選ぶように心がけて買い物をすることも、SDGsを達成するために私たちができる行動です。

いつも食べている米や野菜、卵を育てるのに必要な水の量はどれくらいか調べてみましょう。

Three horizontal lines for writing answers.

みんなが食べてる
バナナのほとんどは、
海外の水で
作られているんだな！



18

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-13

お正月の風物詩といえる凧(たこ)揚げやおせち料理、初詣。これらは「持続可能な開発目標(SDGs)」と、どのように関連するのでしょうか。

凧揚げを例に考えてみましょう。凧には、木や布、ビニール、金属など、いくつもの異なる素材が使われている場合があります。遊び終えて破れてしまった凧を処分する際に丁寧に分別すれば、リサイクルを推進し、廃棄物を減らすことができます。こうして廃棄するものを分別するという身近な行動も、SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」に関連します。

また、おせち料理をはじめ、新春を祝う料理を食べ残さないことや、余すことなく食材を使用することを通じて食品ロスを減らすことも、同じく目標12の達成に貢献できる取り組みです。さらに、亀岡で収穫された食材で料理すれば、外国から輸入された食材を使うよりも、輸送する際に船や自動車消費されるエネルギーや、排出される二酸化炭素量は少なくなります。つまり、私たちが「地産地消」を心がけることで、目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や、目標13「気候変動に具体的な対策を」に貢献することができるのです。

2016年から2030年までを対象期間とするSDGsは、折り返しの時期を迎えます。豊かな亀岡を未来につないでいくために、これからもSDGsのメガネをかけて、私たちができることを一緒に考えていきましょう。

今日食べた食べ物の中で、一番遠い国から旅してきたのはどの食べ物でしょう。思い出して調べてみましょう。

Three horizontal lines for writing answers.

チョコレートの原材料
「カカオマス」は遠い国から
運ばれてきたんだって！



19

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-14

私たちの身近にある学校は、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた重要な場所のひとつです。SDGsの17ある目標の一つには、「質の高い教育をみんなに(目標4)」が掲げられています。その中では、「すべての子どもたちが公平に教育を受け、小中学校を卒業できるようにする」といった内容が示されています。市内には、児童と一緒に校内の花壇を整備している小学校もあり、子どもたちへの環境教育の場にもなっています。

毎年、亀岡市都市緑花協会が開催する「花づくりコンクール」には、色とりどりの花壇などが作品として応募されています。本連載でいつも市内の素敵な写真を撮影してくれる江見さんは、曾我部小学校のサポートスタッフとしても活動しており、「PTAの皆さんや美術の得意な先生が花壇をデザインし、安全対策協力員さん・用務員さんが鉢植えや石の配置を考えて整備し、児童がガーデニングの一角に名前をつけるなど、それぞれの得意なことを生かしながら完成させています」と曾我部小学校の取り組みの特徴を教えてくださいました。

SDGsでは「パートナーシップで目標を達成しよう(目標17)」が掲げられています。曾我部小学校の花壇からは、世代を越えてさまざまな人が連携することで、質の高い教育の提供や、安心して過ごせる環境の整備につながっている様子が伝わってきます。

学校だけでなく、放課後や休みの日に見守ってくれたり、勉強やスポーツを教えてくれる人はいますか?ありがとうございますと伝えましょう。



20

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-15

1995年に発生した阪神・淡路大震災から今年で28年。その後も全国では東日本大震災をはじめとする災害が発生し、私たちは自然災害とも向き合って暮らしていかなければなりません。

持続可能な開発目標(SDGs)でも、防災に関する複数の目標が設定されています。例えば、「貧困をなくそう(目標1)」では、特に弱い立場の人が受けてしまう自然災害による被害を減らしていくこと、「住み続けられるまちづくりを(目標11)」では、災害による死者等を減らすことが掲げられています。

また、地震だけでなく、台風や豪雨、洪水、津波など自然災害もさまざまな種類があることには注意する必要があります。市ホームページには、災害が発生した際に避難できる場所を示した「避難施設・避難場所一覧表」が掲載されていますが、災害の種類によっては避難できない場合もあります。例えば、指定緊急避難場所(注1)である亀岡駅前の「かめきたサンガ広場」は、地震の際に避難することができても、洪水の際には避難することができません。

こうした点にも注意しながら、市が配布した洪水ハザードマップを確認や、避難場所・避難経路を家族で話し合うことも、私たち一人一人ができる行動です。避難が必要になった際にすぐ持ち出せるように、非常時の持ち出し品を準備するなどあらためて考えてみてはいかがでしょうか。

非常時の持ち出し品として必要なものは何か、5つ挙げてみましょう。

Blank lines for writing emergency items.

備えあれば憂なし!
もしもの時の持ち物は
最低3日分用意しておく
便利だよ!



注釈1. 亀岡市避難施設・避難場所一覧表
<https://www.city.kameoka.kyoto.jp/uploaded/attachment/29643.pdf>

21

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-16

4月に入り、市内の小・中学校では新学期を迎え、春休みを終えて登校する子どもたちの元気な姿を目にします。市は昨年、子どもに優しく、子育てしやすいまちを実現するために「子どもファースト」を宣言しました。こうして亀岡の未来を担う子どもたちが安心して成長できる環境を整えることは「持続可能な開発目標(SDGs)」と深く関係しています。

例えば、SDGsの17ある目標のうち「質の高い教育をみんなに(目標4)」では、子どもたちが保育園や幼稚園に通うなどして、小学校に進むための準備ができるようにすることも掲げられています※注1。昨年、亀岡市内の保育園、幼稚園、こども園では、園児が園で使うおむつが無料で提供され、これまで保護者が自宅に持ち帰っていた使用済おむつも、園で処理してもらえるようになりました。ほかにも、第2子以降の保育料をすべて無料化して子どもを預けやすい環境を整えるなど、市が進める子育て支援は、SDGsの達成に向けた行政による具体的な行動です。

2023年1月には、市役所地下にある「開かれたアトリエ」で、「10代のSDGs展」と題したイベントが開催され、亀岡の高校生による活動展示と、車椅子で生活する10代の男性4人組の音楽バンドによる演奏が行われました。子どもたちだけでなく、SDGsにおいて「変化のための重要な主体」といわれている「若者」の活躍も亀岡で確実に広がりを見せています。

■ 学校で勉強したもので、普段の生活に活かしていることはどのようなものがあるか考えてみましょう。

Blank lines for writing answers.



注1 日本ユニセフ協会ウェブサイト[SDGs CLUB]

22

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-17

SDGsの17ある目標の中には「安全な水とトイレを世界中に(目標6)」が設定されています。世界では20億人が安全に管理された飲料水を利用することができないと言われています(2020年時点)※注1。上下水道が整備された亀岡で暮らす私たちは、日頃から安全でおいしい水を飲むことができるため、「みんなが安全な水を使えるようにしましょう」と言われても、自分たちには関係ないと感じてしまうかもしれません。しかし、亀岡で公共下水道が使われるようになったのは、今から39年前の昭和58(1983)年のこと※注2。100年以上前…といった遠い昔の話ではありません。

また、上下水道を維持していくためには、さまざまな課題があります。例えば、昭和50年代に急速に整備された水道管は徐々に老朽化してしまうため、更新していく必要があります。下水道に目を向けると、私たちが炒めものなどを作る際に使用した油を排水口に流してしまえば、下水道管で油が固まり、詰まりや悪臭が発生する原因になってしまいます※注3。

駅前のサンガスタジアム周辺では、市の観光マスコットキャラクターである「明智かめまる」がデザインされたマンホールのフタを見つけることができます。そのフタの向こう側に広がる下水道管をきれいに保つために、私たちにできることがないか考えて行動することも、SDGsの達成につながるはずですよ。

■ 水を無駄にしないためにできる身近なことを1つ考えてみましょう。

Blank lines for writing answers.



注1:国連広報センターウェブサイト「持続可能な開発目標(SDGs)報告 2021」

注2:亀岡市「亀岡市上下水道ビジョン(全体版)」

注3:亀岡市ウェブサイト「下水道の正しい使い方」

<https://www.city.kameoka.kyoto.jp/site/jougesuidou/3952.html>

23

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-18

毎年6月に、各地のランドマーク施設が緑色にライトアップされた光景をご覧になった人もいるのではないのでしょうか。それは6月5日の「環境の日」に合わせて行われていたのかもしれませんが。今から53年前、1972年6月5日から16日までスウェーデンの首都ストックホルムで「国連人間環境会議」が開催されました。これを記念して日本が国連に提案し、世界共通の「世界環境デー」が定められ、日本でも「環境の日」が定められました(注1)。亀岡市は「世界に誇れる環境先進都市」を目指していますから、ぜひ意識したい記念日です。

この時期、市内では青々とした田園風景が広がります。水が張った田んぼでは、さまざまな水生昆虫が暮らし、春先に田んぼを泳ぎ回っていたおたまじゃくしは、梅雨の時期を迎えてカエルになり、合唱を始めます。農業が地域で継続して行われることで、さまざまな生き物が暮らすことができ、SDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」の達成にもつながります。

「田んぼ」や「お米」に関連する市内の話題で思い浮かぶのが、化学肥料などを使わずに育てられたオーガニック米です。保津小学校では、昨年モデル校として給食へのオーガニック米の提供がはじまり、今後全小学校へ拡大する予定となっています。

今月は、梅雨の時期を迎える田んぼを眺めながら、環境とSDGsとの関連を想像してみたいかがでしょうか。

■ 在来種の生き物の数を3種類挙げてみましょう。

■ _____

■ _____

■ _____

自然環境の中で、さまざまな生き物が暮らしているよー

注1:環境省ウェブサイト「環境の日&環境月刊」
<https://www.env.go.jp/guide/envmonth/>

24

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-19

7月に入って気温も上昇し、本格的な夏を感じる時季を迎えます。夏休みが近づき、カブトムシやセミなどの昆虫を求めて、虫取り網を手にした子どもたちの姿も見かけます。一方で、あまりの日差しの強さに、思わず日陰を探してしまう人も多いのではないのでしょうか。

SDGsの17ある目標の中には、「気候変動に具体的な対策を(目標13)」が掲げられています。気象庁によると、京都では年平均気温が100年あたり約2.1℃上昇しており(注1)、全国の30℃以上の真夏日は100年あたり7日増加、全国の日最低気温が25℃以上の熱帯夜は18日も増加しています(注2)。このように、気温が変化すれば、人間だけでなく、身近な生き物にも影響します。例えば、今まで見かけていた植物や昆虫などを見られる時季が変わることも考えられます。こうした生き物への変化はSDGsの目標15「陸の豊かさも守ろう」にも関係しており、複数の目標にまたがる問題であることが分かります。

宮前町にある「地球環境子ども村」では、小中学生向けに「亀岡生き物大学」が開校しており、魚や昆虫の生態などを学ぶことができます。また、子どもから大人まで、みんなが環境について学べる特別講座も開催していますので、親子で亀岡に生息するさまざまな生き物について考え、どのような環境を未来の世代に残していくか、話し合ってみてはいかがでしょうか。

平均気温を100年後に1.5℃下げるために、できることを3つ考えてみましょう。

■ _____

■ _____

■ _____

夏休み、みんなは何して遊びたいかな?

注1:気象庁京都気象台「京都府の気候変動」
https://www.data.jma.go.jp/osaka/kikou/ondanka/leaf/leaf_kyoto.pdf

注2:気象庁ウェブサイト「大雨や猛暑日など(極端現象)のこれまでの変化」
https://www.data.jma.go.jp/cpdinfoextreme/extreme_p.html

25

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-20

夏の暑さが深まる8月は、終戦記念日をはじめ平和の大切さを改めて考える機会があります。亀岡市は、8月を平和月間に指定し、平和祈念式典や保津川市民花火大会などの亀岡平和祭事業を実施していますので、亀岡市民にとっても特に平和を意識する機会が多い時季ではないでしょうか。

今回は、市内の身近な景色からSDGsの目標16「平和と公正をすべての人に」にも掲げられている平和について考えてみましょう。

亀岡のまちを歩いていると、大小さまざまな川が流れており、飲料水や生活用水といった私たちが生きるために欠かせない「水」が身近にあることを感じさせてくれます。

しかし、こうした「水」が争いの原因となってしまうことがあります。例えば、江戸時代には、日本各地で水の利用をめぐる村同士の争いが起こった記録が残されています(注1)。飲み水や生活水の重要性はもちろんのこと、もし何らかの理由で田んぼに水を引けなくなれば、その地域の食糧が不足し、人々の生死に関わる問題です。世界に目を向ければ、現代でも、インドとパキスタンの間を流れるインダス川の水の所有権をめぐる「水紛争」と呼ばれる争いが発生しています(注2)。

8月1日は「水の日」でもありますので、私たちの身近にある「水」を切り口に、日常にある「平和」の大切さを考えてみてはいかがでしょうか。

■ 友達と、同時に同じものを欲しくなったとき、どちらかが我慢することなく、お互いに笑顔になれる解決方法を考えてみよう。



独り占めより、
一緒に遊んだ方が
楽しいかもよ!

注1：農林水産省・関東農政局ウェブサイト「6. 水争いと「農」の秩序【第3章「農」が造った国土】

<https://www.maff.go.jp/kanto/nouson/sekkei/kagaku/kokudo/06.html>

注2：国土交通省ウェブサイト「水資源問題の原因」

https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizusei/mizukokudo_mizsei_tk2_000021.html

26

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-21

市内にある「ごみの集積場」をじっくり見てみると、ほかのまちとは大きく違う点があります。それは「燃やすすかないごみ」や「埋め立てるしかないごみ」という分別の種類です。2023年4月から、亀岡市は、ごみの分別を以前より細かくし、呼び方を変えています。

それでは、なぜこうした取り組みが行われたのでしょうか。ここ数年、国内外で「サーキュラー・エコノミー(循環型経済)」という考え方が注目されています。大量に作って、大量に使って、大量に捨てるといったこれまでの経済の考え方から抜け出す必要があるのです。企業であれば、服を消費者に販売するのではなく、毎月定額で貸し出して、消費者が使わなくなった服が企業に返却され、その服を裁断して原材料にした新たな服が製造される…そんなグルグル回るような循環型のビジネスモデルを実現することが例として挙げられます。

私たちが、こうした考え方で作られた商品を意識して選ぶようになれば、企業が循環型のビジネスモデルに関心を寄せるようになり、徐々に社会が変わる可能性があります。サーキュラーエコノミー(循環型経済)をSDGsの視点で見れば、17ある目標のうち、「つくる責任 つかう責任(目標12)」に大きく関係します。

「世界に誇れる環境先進都市」を目指す亀岡に暮らす私たちの視点から、どのような商品・サービスが亀岡のまちを持続可能にしてくれるか、一緒に考えてみませんか。

■ 不要になったものを捨てずに、どう活用できるか1つ挙げて考えてみましょう。

もう着れないけれど
お気に入りだった服。
誰か着てくれたら
うれしいな!



参考文献：環境省ウェブサイト「令和3年版 環境白書」 <https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r03/index.html>

27

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-22

10月の第2月曜日は、国民の祝日である「スポーツの日」です。暑かった夏も一段落して、運動を楽しむにも良い季節になりました。それでは、本連載で取り上げている「持続可能な開発目標（SDGs）」と運動やスポーツは、どのように関連しているのでしょうか。

「貧困をなくそう(目標1)」をはじめとしたSDGsの17ある目標を確認すると、運動やスポーツに直接触れている目標は見当たりません。しかし、SDGsが含まれた国連の決議文書を見ると、スポーツは「持続可能な開発における重要な鍵」と表現され、平和(目標16)や健康(目標3)、教育(目標4)など、いくつもの目標の達成に貢献する可能性があることが示されています。

その中には、目標10「人や国の不平等をなくそう」も含まれています。スポーツの祭典であるオリンピックと同時期に、障がいのあるアスリートが参加するパラリンピックも開催されます。また、2021年に行われた東京オリンピック・パラリンピックでは難民選手団が参加していました。難民選手団は、紛争や迫害により故郷を追われた難民アスリートによって構成されており、2016年のリオ・デ・ジャネイロ五輪から参加しています(注1)。

このように、障がいや国籍、置かれている立場に関わらず、多くの人がスポーツを楽しむ環境を整えることも、SDGsの達成につながると言えます。

パラリンピックにしかない種目を3つ挙げてみましょう。

■ _____
■ _____
■ _____



注1: UNHCR 駐日事務所ウェブサイト 「Tokyo2020 オリンピック・パラリンピック難民選手団」
<https://www.unhcr.org/jp/tokyo-2020-the-refugee-olympic-and-paralympic-teams> から引用

28

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-23

11月に入り、まちなかの木々も、少しずつ赤や黄色に色づいてきました。丹波亀山城趾や出雲大神宮、保津峡など、市内には紅葉の名所がたくさんあり、国内外から多くの観光客も訪れます。カメラを手に、鮮やかな紅葉を撮影することが楽しみという人もいます。

一方で、あなたが見ている「色」は、家族や友人と同じように見えているかという、必ずしもそうではありません。加齢など、さまざまな理由で、例えば水色とピンクが同じ色に見える人もいます(注1)。そこで「カラーユニバーサルデザイン」の視点から考えることが求められます。「カラーユニバーサルデザイン」とは、多様な色覚に配慮して、情報になるべくすべての人に正確に伝わるように、利用者の視点に立ってデザインすることです(注1)。SDGsでは、目標10「人や国の不平等をなくそう」を達成するために必要です。

また、色の見え方と同じく、匂いや香りに対する感じ方も、すべての人が同じではありません。あなたが好きな香水や柔軟剤の香りが、他の人には頭痛や吐き気の原因になってしまうこともあります。SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」の観点からも、こうした人それぞれ異なる「感じ方」に互いに配慮しながら、暮らしやすい亀岡のまちをつくるためには、一体どのようなことが必要か、家族や友人と一緒に考えてみませんか。

身の回りにある、多様な色覚の人に配慮してデザインされているものを1つ探してみましょう。

■ _____
■ _____

この冊子の文字も「ユニバーサルフォント」だよ！



注1: 東京都(2011)「東京都カラーユニバーサルデザインガイドライン」から引用

29

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-24

あっという間に今年も一年を締めくくる時季になりました。今月はクリスマスや大みそかなど、SDGsの切り口から考えてみたいことがたくさんありますが、今回は「人権」について考えてみます。というのも、国連は毎年12月10日を「世界人権の日」に定め、その日を最終日とする一週間を日本では「人権週間」としています。

SDGsには「誰一人取り残されない」という理念があります。しかし、世の中にある制度や仕組み、施設などを改めて考えてみると、「取り残されてしまう人」がいるかもしれません。例えば、高齢の人、何らかの障害を抱えている人、外国籍の人、子どもや若者…といったように、その制度や仕組みを使う「人」を変えて考えてみてください。

もし、取り残されてしまう人の姿が思い浮かんだならば、その人が不利にならないようにするには、どのように制度や仕組みを変えていけば良いでしょうか。

また、既にSDGsがある時代を生きる私たちは、制度や仕組みを考える時点で、特定の人ができる限り不利な状況に置かれないように、先回りをして対応することができます。

17あるSDGsの目標には、「人や国の不平等をなくそう(目標10)」があり、人権と最も関連するよう感じます。しかし、人権は全ての目標に関係することなのです。

新たな年を迎える前に、あなたが訪れるお気に入りの場所で、誰か取り残されている人がいないか、一歩立ち止まって考えてみてはいかがでしょうか。

■ 年齢・性別・国籍に関わらず、身近にある不平等とその解決方法を1つずつ考えてみましょう。

■ _____

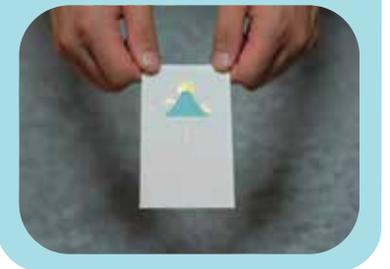
■ _____



参考文献: 法務省ウェブサイト「第75回人権週間 令和5年12月4日(月)~12月10日(日)」<https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken03.html>

30

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-25

新年を迎え、お年玉で何を買おうかワクワクしている人もいるのではないのでしょうか。そこで今回は、SDGsのメガネをかけて、「お年玉の使いみち」について考えてみます。

SDGsは、亀岡だけでなく、世界中で発生しているさまざまな問題を解決するための目標です。例えば、性別や年齢、国籍、障がいの有無などによって不平等な扱いを受けていたり、海や陸の豊かさが失われていたり、たくさん問題が起こっていて、それらを解決するためにSDGsがあります。こうした問題の解決のために、私たちは何ができるでしょうか。

もし、あなたが「川のごみ問題」に関心があれば、川の清掃活動に参加することができますし、自分が直接関わることができなくても、既に活動している団体に寄付をして応援することもできます。

また、役目を終えたパラグライダー生地をオシャレなカバンにした「HOZUBAG」が亀岡で生産されていますが、こうした商品を購入することもできます。ほかにも、お店の棚に並ぶお菓子のパッケージを見比べて、森林の環境などに配慮した製品であることを伝える「FSC認証(注)」などの認証ラベルが付いている商品を選んで買うこともできます。

今年大切なお年玉をどのように使うのか、SDGsの視点から考えてみてはいかがでしょうか。

■ あなたのお家にはFSC認証が付いた商品がいくつあるかな？
探してみよう!

■ _____

■ _____



注:FSCジャパン「一般消費者向けのリーフレット」を参考に記述

※リーフレットについては、URL (<https://www.jp.fsc.org/jp-ja/newsfeed/yibanxiaofeizhexiangkenorifuretsutowozuochengshimashita>)を参照

31

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-26

2月の代表的な行事といえば、「節分」。毎年、新聞やテレビなどでは、各地で豆をまく場面が取り上げられます。スーパーマーケットでは、そら豆、いんげん、サヤエンドウなど、いくつもの種類の豆類が販売されています。ほかにも、亀岡市の特産物として有名な「丹波大納言小豆」を使った和菓子が販売されていたり、豆腐や納豆のように加工されて食卓に並んでいたりします。

このように、私たちの生活に身近な食材である“豆”ですが、その大切さを知ってもらうために、国連は2月10日を「世界豆の日」に定めています。

というのも、豆類は、「経済的に入手しやすく栄養ある食べ物(注)」であると言われています。そのため、すべての人が安全で栄養のある食料を十分得られるようにすることなどを目指すSDGsの目標2「飢餓をなくそう」を達成するために重要な存在です。

こうした豆類を買うときに、産地を確認してみると、「紫ずきん」のように亀岡市内で栽培されている豆類ばかりではなく、亀岡から遠く離れた海外から運ばれて来た豆類を見かける機会があります。今月は豆類を通じて、私たちの生活がどのように世界とつながっているかを理解した上で、できるだけ亀岡市内で生産されたものを買う「地産地消」を心がけてみるなど、SDGsの達成に向けて、私たちができる行動を家族や友人と一緒に考えてみてはいかがでしょうか。

■ 地産地消を心掛けることでCO2の削減に効果があるよ！
なぜだかわかるかな？



注:国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター 2月10日は「世界マメの日」 (<https://www.jircas.go.jp/ja/program/proc/blog/20220210>)から引用

32

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-27

少しずつ、春の訪れを感じる3月。例年、冬季休業期間を終えた嵯峨野トロッコ列車が動き出し、亀岡駅前のスタジアムは、開幕を迎えたJリーグ・京都サンガの試合を観戦するサポーターでにぎわいます。観光やスポーツ観戦などで国内外から訪れる人々に、亀岡の素晴らしさが伝わることはとてもうれしいことですが、同時に、観光客を受け入れる地域の環境が維持されたり、文化が尊重されたりすることも必要です。

例えば、新聞やテレビなどのメディアなどを通じて、過度な混雑が住民の生活に影響を与える「オーバーツーリズム」という表現に触れる機会があるように、解決しなければならない問題も発生します。こうした事実にもきちんと向き合いながら、経済、社会、環境の異なる側面のバランスが取れた観光のあり方は「持続可能な観光」と呼ばれ、その実現に向けて、観光庁は「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを進めています(注1)。

SDGsの目標8「働きがいも経済成長も」には、「2030年までに地方の文化や産品を広め、働く場所をつくりだす持続可能な観光業の政策をつくり、実施していく(注2)」も含まれています。その地域が大切にしてきた豊かな自然環境や、伝統文化を未来の世代につなぎ、地域の人が働く場所をつくりだす——私たちが亀岡の外に旅行する際も、こうした視点を持つことで、訪れる場所の選び方が変わるかもしれません。

■ 「持続可能な観光」を実現するために、あなたが
できることを1つ考えてみましょう。



注1:観光庁「[持続可能な観光]の取組」 <https://www.mlit.go.jp/kankochou/jizokukanou.html>

注2:日本ユニセフ協会[SDGs CLUB]の表現を参考に記載 https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/8-economic_growth/

33

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-28

入学式や入社式など、4月は新たな門出を祝う行事が各地で開かれます。市内でも、七谷川沿の「和らぎの道」や平の沢公園などで、満開の桜を楽しむ人の姿を目にしますが、その季節が早まっているように感じる人もいないのでしょうか。

2023年は、京都での桜の開花日が3月17日と平年よりも早く(注1)、話題になりましたが、その要因として挙げられるのが地球温暖化です。平均気温が上がることで、今後は「桜の開花時期が早まるだけでなく、全国いっせいに開花したり、開花しない地域が生じたりする可能性がある」という研究結果も示されている」と、環境省は指摘しています(注2)。

こうした地球温暖化に深く関係する目標として、SDGsでは「気候変動に具体的な対策を(目標13)」が設定されています。気候変動と聞くと、なんとなく私たちの生活から遠いことだと感じる人もいないかもしれません。しかし、この目標には豪雨や干ばつといった気候変動によって発生する災害への対策も含まれており、日常とかけ離れた話ではないのです。

今月は「桜の開花時期」をテーマにしなが、祖父母世代と孫世代のような幅広い世代で気候変動について話し合い、地球温暖化を防止するために、市内ではどのような取り組みが行われているのか、私たちにできることがないか、話し合ってみてはいかがでしょうか。

地球温暖化を少しでも防止するため、あなたができることを3つ考えてみましょう。

Three horizontal lines for writing answers.



注1:気象庁ウェブサイト「さくらの開花日(2021-2023年)」 https://www.data.jma.go.jp/sakura/data/sakura003_07.html
注2:京都地方気象台「植物の観測結果一覧」

34

SDGsのメガネをかけて見てみよう



日常の景色にある SDGsを見つけてみる-29

毎年5月は、ゴールデンウィークと呼ばれる大型連休があり、多くの人で賑わう観光地の様子をテレビや新聞などで目にします。連休中に亀岡から離れた場所へ移動することがあれば、いつもとは違う「身近なサステナビリティ(=みぢさす)」を見つけるチャンスです。

例えば、目的地に向かうために電車を利用すると、異なる高さのつり革(つり手)が設置された車両に乗ることがあるかもしれません。もし、車内が混雑していて座席に座ることができない場合でも、つり革の高さが異なることで、身長が高い人も低い人も、腕が上がりづらい人も、みんなが安心して鉄道を利用できるため、目標10「人や国の不平等をなくそう」に貢献していることに気づきます。

また、17歳時の日本人の平均身長は、男性が170.7cm、女性が158.0cmと、10cm以上の開きがあるため、電車やバスに乗る際に、つり革が高くて利用しづらかったり、荷棚が高くて荷物を乗せられなかったりした経験のある人の割合は、女性の方が高いのではないのでしょうか。こうした性別による不利益が生じない環境を整備することも、SDGsの目標5で掲げられた「ジェンダー平等」を実現するために必要なことです。

今月はSDGsの視点をういながら、あなたが日々の暮らしで感じる「不便なこと」について、家族や友人と話し合ってみてはいかがでしょうか。

あなたが日ごろ不便と感じていることを見つけて、どうすれば解決するか考えてみましょう。

Two horizontal lines for writing answers.



注:文部科学省・報道発表資料「令和4年度学校保健統計(学校保健統計調査の結果)確定値を公表します。」より引用

35

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



日常の景色にある SDGsを見つけてみるーその30

突然ですが「木で作られたもの」は、あなたの周りにどのくらいあるでしょうか?家具や生活雑貨など、身近にたくさん「木で作られたもの」があるのではないのでしょうか。

亀岡市では、市域面積の約7割を山林が占めています(注1)。市は、こうした地域の木材を使って子育て環境を整備する「ウッドスタート宣言」を2021年に行っているほか、身近な公共施設でも地域の木材が利用されています。

また、日本全体では、国土の3分の2を森林が占めており(注2)、二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防いだり、雨水を蓄えて洪水を和らげたりとさまざまな面で私たちの生活を守ってくれています。これらの役割をSDGsの視点から見ると、地球温暖化を防ぐことは、目標13「気候変動に具体的な対策を」に関連しますし、洪水を和らげることは、目標11「住み続けられるまちづくりを」に含まれた防災に関わる重要な役割です。

しかし、近年では林業の後継者不足などの理由により、こうした役割を担う森林の管理が十分に行き届かなくなってしまうという問題もあります。その解決に向けて、ドローンをはじめとする先端技術やデータを利用する「スマート林業」という取り組みも進められています。

毎年6月5日は「世界環境デー」です。今月は「木」を切り口に、どのように亀岡の豊かな環境を未来の世代につなぐことができるか、友人や家族と考えてみてはいかがでしょうか。

■ あなたの周り「木」で作られているものを3つ探してみましょう。

■ _____
■ _____
■ _____



注1:亀岡市「第3次亀岡市環境基本計画」p.70 注2:林野庁「令和4年度 森林・林業白書」p.38

36

SDGsのメガネをかけて見てみよう 



日常の景色にある SDGsを見つけてみるーその31

この連載で取り上げている「持続可能な開発目標(SDGs)」は、日本だけでなく、世界中の国が力を合わせて達成しようとしている目標です。とはいえ、世界の国々の中には、約8万人が暮らす亀岡市よりも人口が少ない国がいくつもあります。例えば、世界で最も人口が少ない国であるバチカンの人口は615人です(注1)。毎年7月11日は「世界人口デー」ですので、今月は「人口」からSDGsを考えてみましょう。

そもそも「世界人口デー」は、1987年7月11日に世界人口が50億人を超えたことを記念して、国連によって制定されました。その後、世界の人口は増え続け、2022年には80億人を超えています(注2)。一方で、日本の人口は減っています。また、人口に対するお年寄りの割合が高まり、子どもの人口の割合が低い「少子高齢化」が問題となっています。

SDGsの17ある目標のひとつに「住み続けられるまちづくりを」が掲げられていますが、人口が減り続けて、お年寄りの割合が高く、若い人の割合が低い未来が訪れると想像すると、亀岡ではどのような問題が発生するのでしょうか。また、その問題を解決するために、今を生きる私たちができることは何でしょうか。このように未来のことも考えながら、住み続けられる亀岡にするために、私たちにできることは何か、家族や友人と話し合ってみてはいかがでしょうか。

■ どういう行動(生活)をすれば「住み続けられる亀岡」を実現できるか考えてみましょう。

■ _____
■ _____



注1:外務省「キッズ外務省:人口の少ない国」https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/ranking/jinko_s.html
注2:国連人口基金「世界人口白書2023 日本語概要」

37

SDGsのメガネをかけて見てみよう



身近にあるサステナブルなこと “みぢサス”を見つけてみる

この連載が始まって3年がたちました。その間、2030年を達成期限とする「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、多くの人に知られるようになりました。

この連載で、SDGs自体の説明だけでなく、亀岡市内で見つかる持続可能な未来につながること (=身近にあるサステナブルなこと) を数多くご紹介してきたように、SDGsが解決しようとしている問題は、どこか遠い世界の話ではなく、私たちの暮らしのすぐそばにあります。

例えば、SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」の視点から、いつもあなたが通る道路を見てみると、車いすやベビーカーを利用する人にとって使いづらい場所はないでしょうか。目標15「陸の豊かさを守ろう」の視点から、道ばたに咲く花を見てみると、外国から持ち込まれ、もともと亀岡にいる生き物の暮らしを変えてしまう外来種ではないでしょうか。

このように、SDGsの目標を使って身近にあるサステナブルなことを写真に撮り、それを解決したり、前に進めたりする行動を書いて共有する「みぢサス (MIJISUS)」というカードツールをつくりましたので、亀岡市のSDGs特設ウェブサイト(注)をぜひご覧ください。

この連載は今回で最終回となりますが、「みぢサス」を使って、あなたが見つけた身近にあるサステナブルなことを家族や友人に伝えてください。みんなで力を合わせて行動を続けていけば、亀岡の未来はより良いものになるはずですよ。

あなたの周りには「みぢサス (MIJISUS)」を3つ見つけてみましょう。



みんなのノート

あ

か

か

か

か

か

か

か

か

か



名前

所属

高木 超 たかぎ こすも

▲ 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任助教

1986年東京都生まれ。2012年に神奈川県大和市役所入庁。17年9月に退職し、渡米。UNITAR とクレアモント大学院大学が共催する「SDGs と評価に関するリーダーシップ研修」を修了。19年4月から現職。内閣府地域活性化伝道師、亀岡市参与(SDGs アドバイザー)そのほか、著書に『SDGs×自治体 実践ガイドブック 現場で活かせる知識と手法』(学芸出版社)『まちの未来を描く!自治体のSDGs』(学陽書房)。



2025年3月発行

発行: 亀岡市企画調整課

住所: 〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神8番地

Tel: 0771-25-5006

Mail: yume-vision@city.kameoka.lg.jp

監修: 高木超

企画: 亀岡市企画調整課

写真: 江見彩香

絵・デザイン: キモトユウコ



この冊子に関する詳細はこちら

UD FONT
by MORISAWA

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



この製品は、FSC® 認証材、再生資源、および
その他の管理原材料から作られています。